

修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	実践基盤看護学 分野 基礎看護学 領域	学籍番号 214603 氏 名 土肥 美賀
論文題目	新人看護師の職業性ストレス体験におけるストレス認知と評価の特徴	
キーワード	新人看護師、職業性ストレス、認知、評価、ストレスコントロール力	
<p>【背景】 労働者の職業性ストレスが高いことが問題視されている今日、新人看護師の職業性ストレスに対しては、卒後臨床研修が努力義務化され充実が図られてきたが、ストレスに対処できていない実態がある。そのため外的支援に加え、新人看護師のストレスコントロール力を高めることの重要性が示されているが、新人看護師の実情に合ったコントロールのあり方は明確にされていない。そこで、現にストレスをコントロールしながら勤務に従事している、新人看護師の思考に着目することが重要であると考えた。本研究の目的は、新人看護師は職業性ストレス体験をどのように受け止めることでストレスフルであると認知したのか、認知したことに対して、自分に何ができるかと評価したのか、その特徴を明らかにすることである。</p> <p>【方法】 新人看護師の職業性ストレスの思考を明らかにするために、質的記述的研究方法を用いた。対象者は、新人看護職員研修ガイドラインに沿った研修システムを整備している3病院に新卒で入職した、大卒新人女性看護師のうち、一般病棟に配属された11名とした。データ収集は、半構造化面接を同じ対象者に2回（1回目：入職後6～8か月時、2回目：入職後11～12か月時）実施し、認知と評価について、1回目と2回目それぞれ質的内容分析を行った。本研究は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得て実施した。</p> <p>【結果】 調査参加者は1回目は11名、2回目は7名であった。新人看護師のストレス認知は【先輩との関係】【看護師として未熟であることを自覚する】ことに焦点が置かれ、前者の1回目は、お互いの仕事に対する価値観や考え方の理解不足によるもの、2回目は、慣れない・尊敬するといった特定の先輩看護師との関わりによるものであった。後者の1回目は、周囲への影響が気掛かりという遠慮がちな捉え方から、2回目は、患者中心の看護をするための自己課題に関する積極的な捉え方へと変化していた。ストレス評価は【先輩を活用する】【自分一人ですることを考える】ことに焦点が置かれ、前者の1回目は、先輩看護師と自分の業務を分担することで自分に掛かる重圧を軽減する、2回目は、先輩看護師と協働しようとする意識へと変化していた。後者の1回目は、自分の仕事をとりあえず一つずつ取り組む、2回目は、まず自分で取り組み不足部分は先輩看護師と協働していくことで自分にできることを具体的に考えるようになっていた。</p> <p>【考察】 認知と評価の特徴から、新人看護師自身がストレスをコントロールしていく力を向上させていくための手掛かりとして、「①先輩看護師との関係性を強める」、「②学ぶことや経験することの意義を明確に持つ」、「③自分の事を考える時間や自分の心と向き合う時間を持つ」、「④ワーク・ライフ・バランスを実現する」の4つが示唆された。この背景には、①先輩看護師から出された「助け舟」をキャッチし、「助け舟」への乗り方を見極めていること、②できない自分を自覚している一方で「頑張っている自分」を認め、組織の中で「役に立つ存在になる」ことで、自分らしくいられるようにしていること、③気持ちを共有できる同期看護師や友人と「話す・聞く」という行為により、自分の考え方に気付いたり、安心感を得ていること、④看護師でない素の自分に戻れる安心した空間・時間を確保していることが認められた。</p>		